

一番最初の音はパッと花が咲いたように出てきて、それがフワリと宙に浮き、花火のようにすうっと消えいく、それがまるで目に見えるような感じだった。なんときれいな音だろうと、息を飲んでしまった。全体の演奏はあちこちで間をとったり、強弱を微妙に変化させたりと、そうした表現すべてに合点がいくわけではなかったけれど、全体の完成度は驚くべきものだった。次のメンデルスゾーンは有名ではないニ短調のヴァイオリン協奏曲が演奏された。ソロを弾いた高木和弘はメンバーであり、その独奏と伴奏の一体感は格別だった。バーバーのアダージョも素晴らしかったが、圧巻はヒナステラの弦楽のための協奏曲だった。

長岡京のディスクはこれまで5点発売されている。どれをとっても間違いはないのだが、実勢価格が4千円前後なので、まだ聴いたことのない人にはそれなりのガイドが必要であろう。

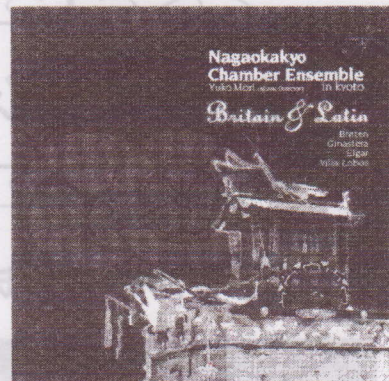
個人的には生で接したばかりのヒナステラが入ったものをまず推したい。ヒナステラは普段あまり耳にしない作品だが、森も言っているようにたいへんに素晴らしい内容を持つ作品である。同じディスクに収録されているエルガーの弦楽セレナードも非常に美しい。

スークとドヴォルザークの2つの弦楽セレナードが入ったものも無類の逸品。特に後者が絶品だ。また、このディスクにはヴィヴァルディのフルート協奏曲「海の嵐」、ヴァイオリン協奏曲集「四季」がボーナスCD(通常CD)としてついている(ただし初回生産分のみ)。2枚分たっぷりと聴きたい人には最適であろう。

デビュー・アルバム①はモーツァルトの「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、バルトークの弦楽のためのディヴェルティメント、ヘンデルの合奏協奏曲作品6の7など、非常に有名な曲が揃っている。とっつきやすさではこれが一番なので、初



デビュー/モーツァルト、バルトーク、ヘンデル、シベリウスほか
[エヌ・アンド・エフ/ファインNF]
NF60101



ブリテンとラテン/ブリテン、ヒナステラ、エルガーほか
[エヌ・アンド・エフ/ファインNF]
NF60106 (SACDシングルレイヤー)
NF20105 (通常CD)

長岡京室内アンサンブルのディスク

- ①デビュー/モーツァルト:「アイネ・クライネ・ナハトムジーク」、バルトーク:弦楽のためのディヴェルティメント、シベリウス:弦楽のためのロマンスほか(録音:2000, 2001年) NF60101
 - ②チャイコフスキー:弦楽セレナード、モーツァルト:ディヴェルティメントK.136~138(録音:2000, 2001年) NF60102
 - ③スーク&ドヴォルザーク:弦楽セレナード(録音:2001, 2002年)/ボーナスCD=ヴィヴァルディ:フルート協奏曲「海の嵐」(独奏:P.ベルノルド),「四季」 NF60103
 - ④東洋と西洋/ペルト:東洋と西洋,武満徹:3つの映画音楽,ピアソラ:3つの小品ほか(録音:2002~2004年) NF60104
 - ⑤ブリテンとラテン/ブリテン:シンプル・シンフォニー,ヒナステラ:弦楽のための協奏曲,エルガー:弦楽セレナードほか(録音:2004, 2006年)
NF60106 (SACDシングルレイヤー), NF20105 (通常CD)
- 以上、エヌ・アンド・エフ/ファインNFより発売。①~④はSACDハイブリッド。

*販売に関するお問い合わせ=ユニバーサルミュージック・カスタマーセンター Tel 045-330-7213/演奏内容に関するお問い合わせ=エヌ・アンド・エフ Tel 03-5411-8216

めて彼らを聴くのには好適かもしれない。最も意欲的な内容は「東洋と西洋」④と題されたもので、ペルト、武満徹、ピアソラ、バーバーなどが収録されている。

この長岡京室内アンサンブルのシリーズの、きわめて水準の高い音質にも触れなければならない。わが家ではこのディスクはチェック用としても使用している。彼らの演奏が何となく冴えない、透明感がないといったふうに響いたとき、私はアンプの接点などを掃除したりしている。

あるとき、私は都内某所でこの長岡京室内のサラウンドを聴かせていただいたことがある。それは、なんとも言い難い体験だった。音源によってサラウンドがこれだけ効果的になるとは思わなかった。私のSACDプレーヤーは2チャンネルしかない

が、試せる環境にある人はこのサラウンドに挑戦してみてもはどうだろうか。

ディスクの音も素晴らしいけれども、生演奏はまた別物である。彼らは演奏会のたびに各地から集合してリハーサルを行うので、年間の演奏回数のごく限られている。以下は今年(2009年)の予定だが、足を運べる人には強力にお勧めしたい。

10月10日(土)14時・那須野が原ハーモニーホール/14日(水)19時・茨木市市民会館/15日(木)19時・吹田メイスアター/16日(金)19時・兵庫県立芸術文化センター/問い合わせ先:長岡京室内アンサンブル Tel&Fax 075-212-2245

(森の発言は『クラシックプレス』2003年、第14号/音楽出版社に掲載の筆者によるインタビューから抜粋)。